
リトルウイング雑務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯

オンドゥル侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リトルウイング雑務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯

【Nコード】

N0865BA

【作者名】

オンドウル侍

【あらすじ】

突如、ファンタシースターの世界に色んな作品のキャラがやってきた！これが前作である。その後、キャラたちは作品を超えてお互いに親睦を深めていく。そして、クリスマスで終わったかと思いきや、まさかのセカンドシーズンで、原作も追加してクラッド6はDAI KON RAN！下ネタあり、オンドウルあり、キャラ崩壊ありのクロスオーバーギャグ小説、まさかの第2弾！

原作一覧：ファンタシースター、仮面ライダー、GANTZ、青の祓魔師、FAIRY?TAIL、銀魂、SKET DANCE、F

a t e、メタルギアソリッド ピースウォーカー、遊戯王5D、s、
ガンダム、トリコ

(この小説はコラボフリーです。)

キャラ紹介 PSメイン編（前書き）

キャラ紹介です。まずは一番のメインであるファンタシースター系キャラをやります。ちなみにオリジナルキャラも含みますので。

キャラ紹介 PSメイン編

アダム・マクスウェル

『PHANTASY STAR GANTZ』系および『PHANTASY STAR PORTABLE 鬼神と少女のモノガタリ』主人公。前作では『実質的』主人公だったが、今作にて正式な主人公に任命されたヒュマ男。貧乳好きだがあくまで女性の好みに止まっている。

身体能力はごく平均的だがそれを使う技術が半端ではないため戦闘能力は尋常ではなく、更に常時着用しているガンツスーツがそのさらなる強さを引き出している。武器なら何でも使いこなせるが、特に双剣とライフルの扱いが得意で、多用するガンツ武器もガンツソード2刀流とXショットガン。

ルミア・ウェーバーとは恋人同士。それまではかなりの美形で性格も良いにもかかわらず20年間彼女がいなかった事もあり、ルミアの事をとて大切にしているが、そのDMっぷりには少し困っている様子。

ガンツスーツが唯一のキャラ立ち要素だが、大量の予備があるため、オシヤカになっても特に問題はない。

ポジションはツッコミだがボケるときはボケる。

エミリア・パーシバル

一応はこの小説のヒロインだが、ルミアに立場を脅かされつつある。元々はスーパーコンピューターに引けを取らない未曾有の天才だったが、海東に演算能力を奪われて未曾有のアホになる。ただ、現在はクラッド学園で勉強しているため、学力もせいぜい一般的なアホのレベルに回復しつつある。

とにかくよく食う。以上によく食う。トリコに負けなくらいよ

く食う。ただ自分で料理を作るとなるとでんで駄目で、しかもたちが悪い事に本人にその自覚はない（料理下手は公式設定）。

一応ガンツスーツとXガン2丁も所持しているが、アダムのキラ立ち要素を無くしてしまうのを防ぐために使用は控えている。

ツッコミのはずだがボケに走る事が多くなった、所謂新八的キャラ。

ユート・ユン・ユンカース

モトウブの原住民族『カーシュ族』出身の少年^{シヨタ}。純真無垢で真つすぐな性格のはずだが、あまりに純粹であるがゆえに自分の欲望、とりわけ性欲に素直。好みのタイプは黒髪ロングで巨乳の女性らしく、そのためナギサに対するセクハラ発言が目立つ。ただ、流石に一線は心得ている。

元々、ビーストの血が入っている以外は普通の沼男だったが、エミリアによる、最強最悪のブラスト技『ユートブラスト』を使えるようにするための改造手術が原因で身体に変調をきたし、世紀末レベルの戦闘能力を手に入れる。ただチエルシーにだけは勝てない。ガンツスーツも持つてはいるが素体スペックがダヴィデ星人すら軽く凌駕してしまうほどのためそもそも着る必要が無い。

もちろんボケである。

ルミア・ウェーバー

アダムの恋人。元々は生真面目で頑固な性格の普通のヒューマンの少女だったが、笑ってはいけない勉強合宿でケツをぶたれまくった事をきっかけとして、マキシマムハイパーサイクロンの直撃を喰らっても大興奮する筋金入りのDMに覚醒。それに伴って何故か体

もかなり丈夫になっており、胸のサイズに対する蔑み以外なら、いかなる肉体的、精神的攻撃にも耐えられる。

アダムに告白したのは彼女の方。ふたりの関係は悪くないが、お互いの準備が出来ていないためキスより先には行った事が無い。

ツッコむ事もたまにあるが基本ボケ。

シズル・シユウ

この小説の不憫担当。元々エミリアと並ぶ天才だったのに海東のせいでエミリア同様未曾有のアホになる。しかも、学校に通っていないため学力はどんどんだがっており、しかも元がエミリアよりはるかに下だったため、間違いなくグラールーのアホ。厨二病でウブでカナヅチでもある。

最初の方は彼女がいない反動から2次元に走ったヲタだったが、桜椿さんの世界から派遣された悠莉・インヴェナーとの交際がスタートしてから彼女を悲しませたくないという思いから節度をわきまえるようになった。

ツッコミ担当だが、あまりの不憫体質故『存在自体がボケ』と揶揄られるほど。

ナギサ

デューマンの少女、と言っても、少女と言う呼び方が似合わないほど大人びた印象を与える。眼帯。そして一番の特記事項は黒髪ロングでナイスバディと言う事。故に男性プレイヤーから絶大な支持が寄せられている。

鴻上ファウンデーションライトベンダー隊隊長であり仮面ライダー

ーバースの後藤慎太郎と恋仲。ただ、旧文明人ワイナールをその体に宿しているため5103と二人きりになれず、そのため進展はあまりない。

ボケ担当だがツッコむ時はツッコむ。

クライス

『仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士』出身。DNAが同じため身体的特徴はユートと完全に一致。ただ性格は結構違う。ライダーの力に吞まれて狂気に走った戦闘狂となっていたが、雑務日誌の世界で皆と触れ合うことで本来の心優しさを取り戻しつつある。ただ処刑人としてのプライドがあるからなかなか素直になれず、それがツンデレキャラとして表れている。変身するライダーはブルース（アビス）で、そのため『ツンデレシヨタザメ』と呼ばれる。文武両道で非常に優秀。

ユートと反対のツッコミ担当。

アレン・クラウド

『仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士』主人公。アダムと違ってキャラ立ち要素がほぼ無いため最近影が薄くなりつつある。ユートと同類の、巨乳好きド変態。同人誌サークルに所属。

よく勘違いされるけど元旦は1月1日の朝の事である。

アダム「あけましておめでとう！」

エミリア「おめでとう！」

ユート「おめでとう！」

ルミア「おめでとうございます、アダムさん！」

シズル「おめでとう。」

ナギサ「おめでとう。」

クライス「お、おめでとう。」

アレン「おめでと！」

アダム「よし、皆今年もよろしくな！ってなわけで、エミリア、ユート、ルミア、ナギサ、クライス、ちょっとこっち来い。」

エミリア「ん？なに？」

アダム「何って、決まってるだろ。お年玉だ。一応この中で最年長（現在21歳）なんだし。」 5人に封筒を渡す

エミリア「あ、ありがと！」

ユート「んゝ、どれどれ……」

ルミア「え…これ…2万メセタも入ってますが！」

ナギサ「こんなにくれるなんて…あなたの財布は大丈夫なのか？」

クライス「別に頼んでないけど…あ、ありがと…」

アダム「大丈夫だ。これくらい何て事無えよ。」

（クラウドとウルスラとチエルシーが出てくる）

クラウド「うし、じゃあ初詣行くぞ！」

ウルスラ「皆、準備は出来てるわよね。」

チエルシー「ハイ、未成年組に私達からのお年玉ヨー。」

エミリア「ふおおお…何買おうかな…」

ユート「エミリア！プリンだ！プリンをいっぱい食べるぞ！」

アレン「みんな相変わらず元気だな。」

シズル「しまった…僕お年玉とか何も無い…」 現在20歳

ナギサ「まア、あまりたくさんもらい過ぎても困るしな。」

クラウド「オイ！ばさっとしてると置いてくぜ！」

（クラッド6内の神社）

エミリア「さて、お参りも終わったし、いよいよ出店でおいしいもの食べるわよー！」

ユート「おー！」

クライス「はしゃぐなっつーの。見てるこっちが恥ずかしいだろうが。」

アダム「……ん？アレって……」

玄野「お、あいつらって」

加藤「主役キャラたちだよ。GANTZキャラを代表してケイちゃんが挨拶に行ってきたらどうだよ。」

玄野「ハア……たく、しゃあねーな。じゃ、タエちゃんはここで待ってて。」

多恵「分かった。」

玄野「おい。」

アダム「あ、玄野じゃん。お前らもここに来たんだな、よろしく。」

玄野「おお。」 アダムと握手

アダム「んじゃ、お近づきの印に食いもんおごらせてくれねえ?」

玄野「え? いいのか? あ、ありがと。あ、タエちゃんも連れてつていいか?」

アダム「いいぜ。」

加藤「主人公同士なのか意気投合してるな。」

エミリア「それに、スーツ無かったら二人ともこれと言ったキャラ立ち要素ないしね。」

加藤「言つてやるな。」

アダム「何がいいんだ？何でも言いな。」

玄野「あ、じゃあ、そのラーメンでいいか？」

アダム「おお、いいぜ。おーい！ラーメン2つ！」 屋台の人に呼び掛ける

涼子「ハイ、分かりました！すぐ出しますね！」

玄野「お、涼子ちゃんじゃん。屋台出してんだな。」

涼子「あ、玄野君。小島さんもいるけど、その方は？」

アダム「アダム・マクスウェルって言う名前だ。よろしくな。」

多恵「結構人がよさそうだね。アダムさん。」

アダム「さん付けはいいって。」

和泉「へいお待ち！ラーメン1つ」 ラーメンを持ち、普段からは想像もできないさわやかな笑顔を浮かべて振り返るが、玄野と目があった瞬間それがひきつった表情に変わる

玄野「あ、和泉。」

和泉「……玄野。この事は黙ってくれ。…言つなよ…絶対言つなよ！」

玄野「それって、言えってことだよな。」

和泉「頼む！言わないでくれ！俺の沽券にかかわるから！毎日あくせく働いても日照りで作物は全滅、おらたちのところにはちよっとしが残って無いんですあ！それまで取り上げられたらおらたちはどうしたらいいんですかい、勘弁してくださいえ、おねげえでござえますお代官様！」 玄野の足元で D O G E Z A

多恵（これが…あの…和泉君…）

アダム「必死にもほどがあるだろ…」

（玄野、笑いながら写メを取る）

涼子「お願い、誰にも言わないであげて！」

玄野「んゝ、分かった。じゃあ、言わないでやるよ。」

和泉「絶対だからな。あ、とりあえずラーメン。2つで800メセタだ。」

アダム「あ、ありがと。」 代金を渡して去る

西「おつ、ミスター D O G E Z A だ。」

E3「DOGE ZAの和泉だ。」

園ちゃん「こんにちは、DOGE ZA君。」

和泉「なに…？あいつら、さっきはいなかったはずだ…クソッ！」
ケータイを取り出す

涼子「和泉君、ちょっと落ち着いて。」

和泉「オイ玄野！誰にも言っなって言っただろ！」

玄野「ああ、言ってねえよ。言っなって言われたからDOGE ZAの写真をpixivとニコ静とFACEBOOKとツイッターにアップしただけだ。」

和泉「余計タチ悪いわああアアアアア！！！！！！！！！！」

加藤「和泉はツッコミか…」

山咲「しかもものっけから不憫やし。」

よく勘違いされるけど元旦は1月1日の朝の事である。(後書き)

ハイ、てな訳でセカンドシーズン第1話です。

新年会ってやった事無い by 作者（前書き）

今回から参戦するコラボキャラ列挙。

澤木翔太郎 & amp; ^{リイマジ}R フィリップ（仮面ライダー W news
tory から）

神童永司（仮面ライダー オーズ オメガブレイクストーリーから）

暁洸介 & amp; セイバー（ジャンヌ・ダルク）（仮面ライダーヴ
アロー ~~~ the magician rider ~~~ から）

悠莉・インヴェナー（PHANTASY STAR PORTABLE
LE2 - インフィニティ 死神と小さき翼の物語およびリトルウ
イングの非日常から）

宇都宮咲魔 & amp; 秋吉夜哉（転生してもうた！系およびINS
ANITY から）

コラボのセイバーは、アーサーの方との混同を防止するためにジャ
ンヌと表記します。

新年会ってやった事無い by 作者

(チエルシーのバー、『スコッチド・アース』にて)

士「新年明けましておめでとうございます!と言う訳で、雑務日誌
ワールド新年会を開催します!」

パチパチパチ

士「では、皆さん、ごゆつくりお楽しみを。」

士郎「おーい。ゴメン、ここで食べていいか?」

エミリア「どうしたの? F a t e 勢つてあつちで飲み食いしてたんじゃないかったつけ?」

士郎「そうなんだけど…」 F a t e 勢のテーブルを指さす

(セイバーを中心に物凄い負のオーラが湧き出ている)

クライス「どうしたんだあれ?…ん? アダム、何か表情がへんだけ
ど。」

アダム「たぶんあれ、俺の所為だ…」

皆「「「へ？」「」」」

士郎「ああ、そうかそれで…」

シズル「何か知ってるのか？」

士郎「実はさ、セイバーの奴、アダムがガンツチーム最強の剣士って情報を聞きつけて決闘を申し込んでさ。セイバーは自信满满だったんだけど、流石にガンツソードさえあればしょうとく星人1体ぐらいならスーツなしでも倒せるほど強いアダムにスーツでしか本気出されたら流石のセイバーでも勝てるわけ無くてそれはそれは悲惨なほど惨敗してさ。それであんな感じなんだ。」

ココ「確かに、騎士王の名を冠するセイバーちゃんがそんなにひどい負け方したら落ち込むよね。」

洸介「ちよつと俺が慰めに行ってくる。おいアーサーの方のセイバーよ…」

（セイバーの憂鬱モードが一瞬で洸介に伝染）

ジャンヌ「ぶっ！」 FAIRY？TAILにおいて有名な『ぐもーっ！』の表情になる

ルミア「…和泉さん、行ってください。」

和泉「何で俺なんだ！」

ルミア「ごちゃごちゃ言っていないで行きなさい」 和泉をセイバーの方に蹴っ飛ばす

和泉「どわあああ！」

シズル「…あ、そうか！和泉はスーツを着ているから負のオーラに耐えられるかもしれない…」

キュウウウウン ドロツ…

士郎「きゅっううん？」

イリヤ「どろっ？」

エミリア「あ、和泉のスーツがオシャレになった……」

皆「『ええええええ！！？？』」

（和泉にも憂鬱モードが伝染）

岡「じゃあないな。俺が行ってくるわ。」

パワードスーツ（ガンツスーツの強化版）を着ている

咲魔「あ、じゃあ私も！」

パワースーツを創造

「アダム、パワー・スーツなら、通常のスーツが一撃でオシヤカになるような攻撃に何発でも耐えられる！これな」

キュウウン
ドロツ…

夜哉「ウゾダドンドコドーン！」

（岡と咲魔にも憂鬱モードが以下略）

大文字「どうする？パワードスーツも使えないんじゃない？」

美羽「ちょっと待って、セイバーが何か言ってるわよ。」

セイバー「……くだ……」

美羽「チエルシーさん、セイバーから注文よ。」

チエルシー「ハ〜イ、ただいま！」 糸電話をオーラの外から投げる

セイバー「…をください…」 糸電話から話す

チエルシー「ンン？もうちょっと大きい声で頼むわヨー。」

セイバー「…この店で一番強い…を酒をください…」

チエルシー「分かったワヨー。」

（キャバ嬢が一人出てきて、ピザを焼くときに使うアレにウォッカのボトルを乗せてセイバーに渡す）

士郎「ヤケ酒で気分を紛らわそうとしてるのか？」

（セイバー、ウォッカをラッパ飲み）

ジャンヌ「そんなに飲んで大丈夫ですかアーサー……」

セイバー「プッハー！いやーもう酒でも飲まなきゃやってらんね
って（＞　＜）！」　左の顔文字と寸分違わぬ表情

皆「『『『『ブッ！』『』『』『』」

セイバー「おゝい土ろゝ、お前もこっちこいやゝ。そんでお前も呑
みなって！」

士郎「ええ？いや、でも俺はアルコールは…」

セイバー「んだよ、アタイの酒が飲めネえってか？」　士郎の口に
ボトルをねじ込む

士郎「ごぼぼぼぼぼぼっ」

（士郎、泥酔してダウン）

エミリア「セイバーって酔ったらキャラ変わるんだね…」

セイバー「オラそこのジャンヌ・ダルクよーおみゃーも呑めや！」

ジャンヌ「いや、私は」

セイバー「問答無用だこのやろー！」　ジャンヌに士郎と同じ事をする

ジャンヌ「ごぼぼぼぼぼっ」

（ジャンヌもダウン）

セイバー「おらー、追加だ追加だ！強い酒どんどん持ってこいやー！」

カナ「おっ、いい飲みっぷりだねあんた！あたしと飲み比べだ！」

セイバー「望むところだっちゅーのー！」

（セイバーとカナ、お互いに呑みまくる）

30分後

士郎「ん……アレ、セイバーは？」

澤木翔太郎「ああ、泥酔してたから遠坂が連れて帰ったぜ。」

士郎「いっつ……頭いてえ……セイバーの野郎どんだけ飲ませたんだ俺に……」

翔太郎「ま、新年会はまだ続いてるから、お前がセイバーの分まで楽しんでやれ。」

士郎「…そうだな。すいませーん！注文お願いしまーす！」

シズル「全く、彼らはもつと静粛に飲めないのか…？」

悠莉「いいじゃないか。シズルも皆と飲んだらどうだ？」

シズル「いや、僕はちよつとな…」

ルミア「オラゝシズルゝ！」

カレン「付き合い悪いゝぞゝ！」

シズル「この人たちも結構絡んでくるんだっとな…分かったよ。」

ユート「永司ゝ！僕とお前、どっちが強いかな勝負だゝ！」
結構酔
ってる

永司「望むところだ！」
意外にもシラフ

ユート『オラアアアアア！』 久々のユートブラスト

『ユニコーン！グリフォン！ドラゴン！ ユニイイグリーイイド
ウオオオオズー！』

シズル「もう止めてほしい…」

1時間後

チエルシー「私の店を荒らすな！」 女性用に改造したFPSセッ
トを着込み、同盟軍時代モード

ユート&永司「ずびばぜんでじだ…」 ボッコボコ

懲りずに4度目キターツ！

クラウチ「さて、メンバーは全員そろったようだし、説明するぜ。」

玄野「何でGANTZから俺だけ？」

弦太郎「何か…嫌な予感がするぜ…」

アダム「俺とエミリアとシズルとクライスと玄野と弦太郎…大体想像はつくけど、何すか？」

エミリア「皆でイベントやるか言ってたけど、100パーアレだよね…」

シズル「だな…宿泊の用意も持ってこいって言われたし…」

クライス「マジでふざけんな！何で僕が2度も！」

クラウチ「えー、お前らには今から、見習い警察官として2日間勤務に励んでもらう。特例の場合を除き、その間は何があっても笑ってはいけない。笑ったらその場でキツイお仕置きが待ってるぜ。」

玄野「ウソだろ！？参戦早々笑ってはいけない参加って！」

弦太郎「遂に俺達ライダーも…」

エミリア「それくらいでビビってたら、皆勤賞のあたしとシズルはどうなるのよ…」

シズル「本当だよ全く…」

クラウチ「ところで、お前ら、その格好で警官の仕事をするつもりじゃないだろうな。着替えはアツチのボックスに用意してあるから、アレに入って着替えて来い。」

皆「……………へーい……………」

クラウチ「よし、じゃあ一人ずつ出て来い。」

アダム「ん…意外と悪くないかも。」

美形 コスプレ警官 アダム

エミリア「このスカート足開きにくい…」

大食い フトモモ警官 エミリア

シズル「せめてコート着用は許してくれ…生地が違うから落ち着かない…」

能無し 不憫警官 シズル

クライス「拳銃は無いのかよ。」

優秀 ツンデレ警官 クライス

弦太郎「何か落ち着かないぜ…」

ヤンキー ロケット頭警官 弦太郎

玄野「メンドくせえ…ま、いつか。」

コスプレその2 昼行燈警官 玄野

クラウチ「全員着替え終わったな。よし、ここでちょっと待ってる。バスが来るぜ。ナビゲーターももうすぐ来るはずだ。じゃ、俺は仕事があるから帰るぜ。」 その場を去る

クラッシュタウンモード

鬼柳「待たせたな。俺がナビゲーターの鬼柳だ。」

玄野「男かよ…」

鬼柳「じゃ、バス来たから乗れ。」

エミリア「行き先は…えつと…」
オンドウル
『温度売警察署』…」

アダム「作者どこまでオンドウルに頼る気だ…」

鬼柳「さあ、バスに乗った瞬間からスタートだ。気を引き締める。」

『絶対に笑ってはいけない警察署』スタート！

懲りずに4度目キターツ！（後書き）

ボッスンさんの世界から派遣されたバナージとヤミは次回から出ます。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 1（前書き）

今回から、ボッスンさんとのコラボで金色の闇ヤミちゃんとバナージ・リンクスが参戦します。

ユニコーンって面白いよね！ぶっちゃけAGEよりずっといい。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 1

玄野「あ、バス停まったぞ。」

(ヤミが乗車し、メンバーの正面に座って本を読みだす)

エミリア「いきなりコラボキャラ使ってきたね。」

シズル「何読んでるんだ…？えっと……レベルアップいな。」

ヤミ「…熱つつ！」 鯛焼きを一つ取り出してかじるが、あまりの熱さに思わず放り出す

玄野「ぶふっ」

クライス「くつくく…」

デデン

『クライス 玄野 OUT』

田中星人「祐三くん？」

クライス「いでえ！」

玄野「ぎゃあ！」

(笑うと田中星人にケツをぶたれる)

ヒューガ「…これはこれは、ヤミさんではありませんか。いやあ、改めて見ても非常にお美sホゴオッ!」 拳に変化したヤミの髪に顔面ストリートを叩きこまれる

ヤミ「殺しますよ。」

ヒューガ「……」 メガネが割れてる

弦太郎「くくっ」

アダム「ぷふっ」

玄野「カアアアアアアア…」

デデン

『アダム 弦太郎 O U T』

アダム「ちよつと待て! 玄野が松本と同じ手え使ってるけど!？」

田中星人『ハアーハアーハアー』

アダム「どお!」

弦太郎「いった!」

（バスが次の停留所に着き、ヤミが降りた直後にドアが閉まる）

弦太郎「誰も乗ってこねえぞ。」

???「停めてくれ！バスを停めてくれ！」

エミリア「ぶっ」

椿「バスを停めてくれええ！」 首から下がスパイダーマ の格好
でバスを追いかける

デデーン

『エミリア OUT』

田中星人『カンタローッ』

エミリア「あう！」

（椿が見えなくなる）

エミリア「どんだけ昔の映画使うのよ。」

クライス「作者の限界だろ。」

玄野「くふふっ」

シズル「ハイ笑ったー」

デデン

『玄野　OUT』

田中星人『スイカの名産地？』

玄野「だあ！」

（停留所に到着し、ホストざむらいときるびるが乗り込んでくる）

玄野（あ、あいつ…）

ホストざむらい「……」　持っていたカバンから般若のお面を出してかぶる

エミリア「ふふっ」

弦太郎「ぶっ」

シズル「くくく……」

デデーン

『エミリア シズル 弦太郎 O U T』

田中星人『さわやかな…？』

エミリア『痛い！』

シズル『だあ！』

弦太郎『でえ！』

きるびる『……』 シズルをガン見

シズル『ぷふふっ』

デデーン

『シズル O U T』

田中星人『良い子のみんな いいかなー』

シズル『ぎゃあ！』

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 1（後書き）

ホストざむらいときるびるの本名知ってるヒトがいたら教えてください

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 2（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：1回

エミリア：2回

シズル：2回

クライス：1回

弦太郎：2回

玄野：2回

モノマネ開始)

斉藤「だあああ!!だあああ!!どおお!!」 手すりに突進して跳ね返ってまた反対側の手すりに激突、これを延々繰り返す

弦太郎「だっはっは!あーっはっは!」

斉藤「おおおお!!!!!!」 さっそうと退場

デデン

『弦太郎 OUT』

田中星人『祐三くん?』

弦太郎「があ!」

鬼柳「見えてきたぜ。アレが、オンドゥル温度売警察署だ!」

エミリア「うっわ、地獄の門だ…」

鬼柳「よし、全員降りたな。じゃあ、受付に行くぞ。」

弦太郎（受付嬢トラップキターツ…）

鬼柳「彼女が、受付嬢のセイバーさんだ。何でも知ってるから、分からない事があつたらこの人に質問するように。」

セイバー「ちよりーっす、セイバーでいーすヒック（＞＜）」

90度のウォッカのボトルを手に握り、ラッツの袋に手を伸ばしながら挨拶

アダム「んふっふ」

エミリア「ぶっふふ」

玄野「くくく…」

デデン

『アダム エミリア 玄野 O U T』

田中星人『ヘーヘーヘーヘー』

アダム「いっつー！」

エミリア「いたあ！」

玄野「いっづ！」

シズル「セイバーさん！何で昼間っから酒乱モードなんだ！」

セイバー「んああ？何言つてんだ銀髪兄ちゃん、あたいは全然酔つてねーっつーのゴクゴク…」　ウォツカをストレートでラッパ飲み

エミリア「いや、見て分かるから。」

セイバー「エミにゃんまでなにいつてんだよーばりばりごくごく」
クラッ　を食べ、ウォツカをラッパ飲み

エミリア「んふふ」

シズル「…ぷふっ」

クライス「ぶーっ！」

デデン

『エミリア　シズル　クライス　OUT』

田中星人『ハアーハアーハアー』

エミリア「きゃあ！」

シズル「うぐっ！」

クライス「いったあ！」

セイバー「んじやなゝ新米どもぐびぐび」 ウォツ力を以下略

アダム「エミにゃんね……」

シズル「あだ名がついたな。」

エミリア「嬉しくないわ！」

クライス「……」

玄野「あ、クライス笑ったぜ。」

デデン

『クライス O U T』

田中星人『カンタローツ』

クライス「いっで！」

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 2（後書き）

はい、エミリアにあだ名がつけました。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 3（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：3回

エミリア：5回

シズル：4回

クライス：4回

弦太朗：4回

玄野：4回

今回はちょっと短いです。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 3

鬼柳「ここがお前らの部屋だ。俺が呼びに行くまでそのまま待機だ。」

エミリア「で、恐怖の引き出しネタってわけね。」

アダム「はあ、だな。んじゃ、俺から行くぜ。…ぶくくッ…」

デデン

『アダム OUT』

田中星人「さわやかな…?」

アダム「いだっ!」

エミリア「何が入ってたの?」

アダム「…コガネムシの死骸。」

エミリア「ふふっ」

玄野「ぶっ」

デデン

『エミリア 玄野 OUT』

田中星人『カンタローッ』

エミリア「ひゃあ!」

玄野「いっづ!」

アダム「……一番下にこれあった。それ以外は何もなし。」 ボタンを取り出す

エミリア「まア、これは後で処理するとして、次はあたしね。…無い…ここも無い…うっわ、また…」 ボタンを取り出す

アダム「お前のところにもあったか…」

エミリア「……あ、ボタンだけだよ。」

シズル「押したくて仕方が無いんだが…」

クライス「僕も。」

エミリア「じゃあ、二つともいくよ。まずはあたしの机にあった方。…3!2!1!」 押す

『エミリアさんへの出題です。』

玄野「クイズか。」

『問題。原作のガンツが、ねぎ星人ミッションで玄野に下したコメントを言いなさい。』

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 4（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：4回

エミリア：7回

シズル：4回

クライス：4回

弦太郎：4回

玄野：5回

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 4

クライス「やっぱリアダムのボタンは保留にするか？」

シズル「いや、今のうちに処理しよう。」

エミリア「だね。」

アダム「…押すぜ？」 押す

（天井からカナブンの死骸が降って来る）

弦太郎「…こんだけ？」

エミリア「…みたいだね。」 Xガンでボタンを二つとも粉砕

シズル「次は僕か。まずはこの引き出し…」

（ヤングマガジンが入ってた）

弦太郎「ヤンマガが好きなのかお前？」

シズル「どちらかと言うと僕は少年誌派なんだがな…さて次は…」

（またしてもヤンマガ）

シズル「…次は…」

（3たびヤンマガ）

シズル「次…」

（またまたまたヤンマガ）

エミリア「ヤンマガはつかじゃん。」

クライス「最後くらいは違う奴だろ。」

玄野「ヤンジャンだったら俺がもらってるけど…」

シズル「…最後行くぞ…」

（ヤンマガぎっしり）

エミリア& a m p・シズル& a m p・玄野「」「ぶふっ」「」

デデーン

『エミリア シズル 玄野 O U T』

田中星人『雄三君？』

エミリア「きゃあ！」

シズル「でえ！」

玄野「いった！」

クライス「次は僕だな。…ここは無し。…出た…ボタン…」ボタンを出す

弦太郎「ボタン多いな。」

クライス「…次は無し…これもなし…次は…何かヤケに重いなこの引き出し…」

玄野「何が入ってるんだ？」

（一番下の引き出しに何やら真っ赤な妙にさらった液体がなみなみと満たされてた）

皆「……………」

クライス「…」黙って引き出しを閉じる

弦太郎「…ともかく！次は俺だな！よっし開けるぜ！…お、無しか。…ここも無し。で、この段は…んだこれ。…布？」畳まれた布を取り出す

玄野「広げてみるよ。」

弦太郎「おお、わかった…」

（布の正体：仮面ライダー部の旗のレプリカだが真ん中に描かれているのはフォーゼじゃなくてクノーの顔）

皆「……………ぶふっ！……………」

デデン

『全員　OUT』

田中星人『カンタローツ』

アダム「いでえ！」

エミリア「いたあ！」

シズル「ぐお！」

クライス「いつだ！」

弦太郎「がう！」

玄野「ぎゃあ！」

シズル「おにぎり繋がりが…」

弦太郎「いや俺おにぎりじゃねえって！」

エミリア「でもおにぎりとも言われるよね。」

弦太郎「とにかく残りの処分するぞ。…ここは無しか。ここは…お。
「SHフォーゼBステイツを取り出す

玄野「残りは俺だけか。えっと最初は…」

ブッシュウウウウウウウウ！！！！（CO?ガス噴射）

玄野「のゝわあああああ！！！！！！………？………？………？………？………つたく、驚かせやがって……次は……」

ブッシュウウウウウウウウウ！！！！！

玄野「ギヤアアアアア！！？………またかよ………んじゃ次……」

（結局全部CO?ガス。ちなみにこれで笑ったメンバーはゼロ。）

玄野「ゼエ……ゼエ……ゼエ……」

エミリア「これで全部処分できたね。さて、次は……」

クライス「僕のボタンか。よし、押すぞ。」 押す

バンッ！

皆「………どわああ！！！！！！！！！！」

（近くの棚の上に飾ってあったオブジェが大爆発）

玄野「よし、これで引き出しネタは全部処分できたな。」 Zガンでボタンを押しつぶす

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 5（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：5回

エミリア：9回

シズル：6回

クライス：5回

弦太郎：5回

玄野：7回

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 5

鬼柳「皆、警察って、なんか何処となく堅いイメージがあるだろ？」

弦太郎「まア、言われてみればそうだな。」

鬼柳「そういうイメージを払拭するための演劇発表会があるから、観に行くぞ。」

エミリア「ぎゃ〜…」

(講堂にて)

『皆さま、大変長らくお待たせいたしました。これより、警察劇団による、演劇発表会を開始いたします。ごゆっくりお楽しみください。』

ファラララッファラッ ファラララッファラッ ファラララッ
アラッ デン

ホンワカパッパ ホンワカパッパ ホンワカパッパ
ホンワカパッパ ホンワカパッパ ホンワカパッパ……

エミリア「新喜劇じゃん…」

クライス「何にも警察なことないじゃねえか…クソが…」

（向かいにクリーニング屋があるうどん屋のセットが出てくる。ちなみに店名は『冬木うどん』）

ウェイバー「いや、おいしいですね此処。ちょっとぼろいから正直不安だったんですけど。」

慎二「あ、ありがとうございます。ま、ぼろいは余計ですけどねハハハ。」

桜「もく、お上手なんですからー！」 手に持っていたお盆でウェイバーを殴打

ウェイバー「ぎゃはっ！」

アダム「くくく…」

エミリア「ぷっ」

シズル「んっふふ」

クライス「ぶふふっ」

弦太郎「うふふっ」

玄野「ぶはっ」

ウェイバー「何するんですか！」

慎二「すいません！まだ勤め始めたばかりやから分かん事ばつかしなんですけどね…ほら、謝らんとアカンやろ！」

桜「ごめんなさい…まあ、お兄ちゃんそんなキツく言わんでもええんちゃうん？」

エミリア（何で皆関西弁なの…）

ウェイバー「そう言えば、ここは兄弟二人でやってるんですか？」

慎二「いや、母もいますけど、今は買い物に出てるんです。もうそろそろ戻って来ると思ってますけどね…あ、戻ってきた。お母ちゃん！お母ちゃん！」

（老け顔メイクを施し、湯老婆ゆばばみたいな髪をかぶってアイリ登場）

アイリ「ゴメンやしておくれやしてごめんやっしや」……」

（全員ずっこける）

ウェイバー「何なんですかそれ！」

アイリ「いや、この挨拶しないと湯老婆に間違われるんです。」

ウェイバー「そ、そうですか…」

アイリ「あ、申し遅れました。私がここの経営者で、元ミス・ユニバースのアイリスフィール・フォン・アインツベルンと申します。」

ウェイバー「あ、ミス・ユニットバス？」

アイリ「エッ！いや、ミス・ユニバースです。」

ウェイバー「あ、ミスって失敗のミスですか。」

アイリ「エッ！いや、美を競うコンテストの事です。」

ウェイバー「え？病気を競うコンテスト？」

アイリ「エッ！いや、美しさの事ですよ。」

ウェイバー「ああ、そっちの事ですか。」

アイリ「まあ、もう若い頃の話ですけどね。ウフフフツ、ハツハツハツハツハツヒツフツヘツホツ」

（またしても全員ずっこける）

桜「まあ、お母ちゃん。」

アイリ「ごめんごめん。」

ウェイバー「面白いお母さんですね。じゃあ、お愛想お願いします。」

桜「あ、はいはい！」

（勘定を済ませ、ウェイバー退場）

慎二「それにしてもお母ちゃん、もうええ年なんやから、仕事は僕らに任せてゆっくり休んだらどうや？」

アイリ「何言つてんの、私は楽しくてやってんのよ。それに私はまだまだ元気よ！」

桜「お母ちゃんがそう言うんやったらええやろ！」

士朗「あ、こんにちはアイリさん！」 クリーニング屋からでてる

アイリ「あ、士朗じゃない！どうしたの？」

士朗「いや実はですね、僕の恋人が今日遊びに来るんですけど、アイリさんを紹介してもいいですか？」

アイリ「いいけど、何で私なん？」

士朗「何でって、アイリさんと、亡くなった切嗣さん、両親を亡くした僕を息子みたいに世話してくれたじゃないですか。高校と大学の学費まで出して下さって、ホント、感謝してもしきれないくらいですよ！せめて、それくらいは……」

アイリ「あら、そんなに思ってくれるなんて嬉しいわ。」

士朗「あ、来た来た。こっち！こっちや！」

（セイバーが私服で登場）

セイバー「お邪魔しますか？」

（皆ずつこける）

慎二「いや、『か』は要らないから。」

セイバー「あ、『か』はいりませんか。分かりました。お邪魔します。あの、ここが冬木うどんです。」

慎二「いや、そこはいるでしょ！」

セイバー「あ、分かりました。此処が冬木うどんですか？」

桜「あ、そうです。」

セイバー「私、シロウの恋人をやらせてもらっている、セイバーと言う者ですか？」

慎二「そこは『か』いらんから！」

セイバー「あ、はい。私、シロウの恋人をやらせてもらっている、セイバーと言う者ですが、」

慎二「あ、『か』ね。それやったらちゃんと濁点つけて。」

セイバー「あ、濁点つけるんですか。はじめ、まして…」

慎二「全部ちゃう全部ちゃう！必要なところだけ濁点つけて！」

セイバー「分かりました。初めまして。貴方達のお話はシロウからよく聞いています。シロウをこんないいヒトに育ててくれたのが、アイリさん達なんですね。」

桜「礼儀正しいんですね。」

セイバー「いえいえ、そこまではありませんよ。」

士朗「こいつ、基本的に結構他人行儀なんですよ。」

アイリ「いいじゃないの、こういうのはいい癖なんやから。所で、『セイバー』って名前やけど、外人さん？」

セイバー「イギリス出身ですけど、今は日本国籍です。」

アイリ「へえ。」

エミリア「Fateメンバーで新喜劇って…」

アダム「こりや今後も破壊力あるネタが来そうだな。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART 5（後書き）

最近新喜劇観てないな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0865ba/>

リトルウイング雑務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯

2012年1月14日15時48分発行